

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 5月 22日

事業所名 ことばの教室ことのは

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10	0	0		
	2 職員の配置数は適切である	10	0	0	概ね個別対応しており、人員配置的には十分であると考えている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	1	1	急な階段であるためバリアフリー化として階段には手すりを設置。	バルコニー柵からの転落の懸念があり対策が必要と考える。できるだけ早く安全策を検討実施したい。また、階段の昇降が厳しい児童には、姉妹教室を案内して対応している。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	1	0	職員面談等で業務内容の意見集約を行っている。また適宜ミーティングの中でも話し合っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	1	0	毎年実施し、保護者からの意見を参考に事業改善に取り組んでいる。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10	0	0	毎年この自己評価の結果をホームページに掲載し公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	1	1		
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	0	0	年間通して、独自の研修計画をてたり、新人職員に対しての新人研修プログラムを策定実施している。また、外部団体で行われている研修会にも積極的に参加している。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10	0	0	日常的な訓練の中での気づきや保護者との申し送り、モニタリング等の会議でニーズや課題を確認し、支援計画へ反映している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	0	1	K式発達検査やその他の検査等を使用し把握している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	9	1	0	利用児童の振り返りの中で、効果的な遊びについて話し合っている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10	0	0		
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	4	0	日頃より活動の設定を児童の個別の興味関心に応じて設定している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	10	0	0	個別活動を基本としているが、個別遊びから2〜5人程度の小集団活動などに発展させる工夫をいつも試みている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	1	0	前日に予定表を作成し役割分担を共有している。また、活動の振り返りの中で動きや反省等を次回の活動へ繋げている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10	0	0	活動後に30分程度のミーティングを行い情報を共有。休みの職員も共有できるよう簡単な議事録を職員グループLINEにて共有している。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	0	0	個別記録は主に言語聴覚士が行っており、記録の時間も確保するようにしている。記録漏れがないかのチェック作業も実施。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	10	0	0	モニタリング会議に参加し、ミーティングにて全体へ共有。定期的に評価シートを使い評価を行い、適宜支援計画に反映させている。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7	3	0			

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	1	0	主に担当の言語聴覚士が会に参加。参加できない場合は、相談員へ教室での様子を情報提供している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	9	1	0	行事や下校時間等については、保護者と公式LINEなどで連絡調整をしている。学校との情報共有は児童の預かり時に適宜行い、事業所職員全体に共有を図っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	5	1	現在医療的ケア児がいないが、在籍となる場合は、保護者と基本連携をとりながら、必要に応じて主治医と連携を図る予定です。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	9	1	0	利用開始にあたって関係者会議等に参加し、各機関と顔合わせし、情報共有を行なっている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	3	0	関係者会議に呼ばれたら参加、又は情報提供書を作成し次の支援事業所に情報提供を行う等している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	3	1	主に研修等に参加をさせてもらっている。	助言をもらったり連携する必要性があれば、依頼することになると考えている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6	4	0	公園等で偶然に交流の機会があれば一緒に遊べるようサポートしている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	6	2	昨年度は参加していたが、今年度は参加できなかった。	取締役が隣町の自立支援協議会全体会の委員として参加しているが、次年度は糸満市の自立支援協議会などの参加を検討している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	0	0	利用日には対面や公式LINEでその日の活動や訓練の様子を申し送りしており、事業所と家庭又は学校での様子を含め情報共有を行っている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	8	2	0	申し送りの際に保護者に対し、ペアレント・トレーニングの観点から関わり方のアドバイスをこなしている。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10	0	0	利用契約時にそれらの説明を行っており、変更等があれば適宜説明を行なっている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10	0	0	申し送りの際に保護者からの悩み等について、必要な助言を行なっている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	0	6	当事業所では、まだ保護者会を行っていない。	保護者にそのニーズがあるか聞いてみたい。ニーズがあれば保護者会の開催を検討したいと思う。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10	0	0	対面でご要望等のお話があれば、それに対し検討し返答をしている。苦情があれば、できる限り速やかに改善策を提示、実行するようにしている。また、その件について、会社全体にも共有するようにしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	2	2	活動の様子や行事等については、教室のブログや個々のLINEでその様子を発信、共有している。	
	35	個人情報に十分注意している	10	0	0	各教室と個人情報の取り扱いについて情報交換を行い、他教室の良い取り扱い方法等を参考にもしている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	0	0	児童については、イラストや写真などを使い理解できるよう工夫している。また、保護者については、該当する保護者がいないため特に措置を講じていない。	該当する保護者がいる場合は、保護者に対し、できる限り工夫をする中で説明を行うつもりである。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	2	6	行事等への招待などは行っていないが、散歩等の活動の中で周辺住民に対し、積極的に挨拶を行ったり、活動の内容などを伝え、教室の運営理解に繋がるよう働きかけしている。	

		チェック項目	はい	どちらとも えない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	9	1	0	各種マニュアルを策定し、職員がいつでも確認できるよう設置。また、適宜保護者に当教室の対応手順を説明等を行なっている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	1	0	年に2回防火管理者立ち合いの下で、避難訓練や通報訓練を中心に実施しています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	0	0	外部の研修会に参加し、全職員にも研修内容を報告などしている。また、虐待防止委員会でもさまざまな事例検討などを行ったりしている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	3	1	やむを得ず身体拘束を行う場面が想定される児童については、個別支援計画に記載。また、保護者に対しても説明を行なっている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10	0	0	事前に保護者よりアレルギーの有無や対応を確認し、職員全体で周知している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10	0	0	大きな事故に繋がるようなケースについては、当教室だけでなく全教室にも周知している。	小さなヒヤリハットでも逃さずに記載し、職員全体で共有することを心がけていきたい。